

「中島飛行機武蔵製作所」と武蔵野の空襲

かつて武蔵野には日本有数の巨大軍需工場「中島飛行機武蔵製作所」がありました。戦前の日本を代表する航空機メーカー、中島飛行機株式会社のエンジン製造工場で、敷地は現在の武蔵野市役所から武蔵野中央公園にかけての1帯、約56万平方メートルに及びました。最盛期には当時の武蔵野町の人口を上回るおよそ5万人が24時間操業で働き、その生産量は日本の軍用機エンジンの3割を占めるほどでした。

このように軍事上極めて重要な施設であったことから、太平洋戦

争末期にアメリカ軍が日本本土をB29爆撃機の射程圏内に収めると最優先の攻撃目標に選ばれます。

初空襲を受けたのは昭和19年(1944)11月24日。サイパン島を飛び立ったB29爆撃機が編隊を組んで飛来し、高度約1万メートルから250キロ爆弾を降らせ、57名の犠牲者を出しました。

以降も敗戦までに空襲は計9回を数え、従業員の犠牲者は200名以上、負傷者も500名を超えたといいまます。また工場を狙った爆弾は周辺地域にも落下し、一般市民にも多数の犠牲者を出しました。



1945年4月7日の空襲の様子。爆撃中の米軍が撮影したもの。右上に、楕円形をしたグラウンド(現在の武蔵野総合体育館、当時は中島飛行機付属の厚生施設だった)の姿が見て取れる。(写真/米国立公文書館)

【特別寄稿】

武蔵野市平和の日制定10周年を迎えて



武蔵野が初空襲を受けた11月24日を「武蔵野市平和の日」とする条例が制定され10年目となりました。「平和の日」の制定を機に、市民との協働による平和事業や市民団体等による平和の取組みが市内各所で広く展開され、継続されていることを嬉しく思います。

「平和の日」制定については、藤元市長時代の議会に、他の平和施策と合わせて請願された経緯があったようですが、その後の市政においても具体化には至りませんでした。

私は、2005年に市長に就任しましたが、自治と平和の取組みを重視し、非核都市宣言自治体協議会や平和首長会議への加盟、市民参加による武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会の常

前武蔵野市長 邑上 守正

設化、平和・憲法手帳の発行、長崎市への青少年平和交流派遣など、武蔵野市における平和への取組みを徐々に拡充してまいりました。

その間、「武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会」より、武蔵野の戦争の歴史を学ぶとともに、「平和の日」制定についての提案を受け、私自身もその意義を深く感じた次第です。

2009年の2期目の市長選挙において、公約の一つに「11月24日を武蔵野市平和の日に！」を掲げ、再選後の2010年、武蔵野市平和施策懇談会に平和の日制定などの平和施策の在り方について諮問しました。2011年1月に受けた答申では、平和の日制定の意義、平和の日を11月24日とするものの妥当性等が示され

たことから、市議会へ「武蔵野市平和の日条例(案)」を提案し、同年9月議会で全会一致で可決され制定に至りました。

しかし、「平和の日」を制定することそのものが目的ではなく、これを契機として、改めて戦争の悲惨さと平和の尊さを多くの若い世代に伝えていくことに意義があると考えています。

平和の日が、世界中の都市でそれぞれ制定されれば、一年中、毎日どこかの都市で平和が発信され続けて行くのではないかと、第8回平和市長会議総会・世界大会(2013年8月広島市での開催)において、日本の都市を代表として、「武蔵野市平和の日」を紹介するとともに、世界の各都市で平和の日を制定し、都市と市民が連携して平和な世界を実現しようと提言しました。

「武蔵野市平和の日」を通じて、戦争も核もない平和な世界の実現を目指し、市民と市が力を合わせて平和の大切さを発信し続けていきたいと思います。



Peace Month in MUSASHINO 2021

むさしの市民平和月間

2021



「むさしの市民平和月間」は、戦争のない平和な社会を実現するため、武蔵野市民が声をかけ合って取り組んでいる一斉行動です。11月3日(日本国憲法公布の日)から11月24日(武蔵野市平和の日)を大まかな期間として、様々なグループ・個人による企画が予定されています。「武蔵野市平和の日」制定から10年の節目となる今年、改めて多くの方々と平和について考えていけたらと願っています。